



Minami Wakayama
Medical Center

Vol.67

発刊：令和6年5月

南 輝

なんき

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センターだより



雲海の夜明け 撮影者 栄養管理室長 父川 拓朗

基本理念 思いやりのある医療を実践します。

あなたの権利を尊重し
あなたを中心とした
あなたに適した医療を提供します

1. プライバシーの尊重を実践します。
2. 親切・丁寧なケアを実践します。
3. わかりやすい説明と納得による診断治療を実践します。
4. 地域医療機関との連携強化を図ります。
5. 自ら研鑽に努め、良質な医療の提供に役立てます。



Minami Wakayama
Medical Center

南和歌山医療センターの基本理念である
『思いやりのある医療を実践します』に基づき、

1. 明るく (A)
2. 挨拶があり (A)
3. 愛のある (A)
4. アカウンタビリティ (納得説明義務) (A)

の4つの頭文字のAを基本デザインとしています。

これは丸みをおびた形でやさしさを表現し、4つの理念が集まることで、空 (明るい未来) に向かって羽ばたく鳥を表しています。4つのカラーは黄色が明るさ、赤が愛、青と緑は南和歌山の自然の象徴である綺麗な海と、山を表現し、南和歌山医療センターの環境の良さもアピールしています。

受診者の皆様の義務

- 南和歌山医療センターは受診者の皆様と病院の双方がお互いに尊敬し、協力し合うことが安全かつ良質な医療の提供につながるものと考えています。
受診者の皆様には以下の事項に合意し、守っていただく必要があります。
1. 安全かつ最善の診療のためにご自身の身体や必要事項に関する情報を、私たち職員に正確に伝えていただくこと
 2. 検査・治療は説明を受け、納得・合意の上で受けていただくこと
 3. 当院は近隣の医療機関と連携して専門性の高い医療を提供する急性期病院である。救命救急、がんに対する医療と緩和ケアを提供する病院の役割をご理解の上、診療体制維持に協力いただくこと
 4. 病院内では静粛を保ち、院内のルールに従っていただき、他の来院者や入院中の方に迷惑をかけることのないよう配慮していただくこと
 5. 病院内ではお互いに礼儀正しく思いやりのある態度で接していただくこと
 6. 医療費の支払い請求を受けたときは遅滞なくお支払いいただくこと

受診者の皆様の権利

- 患者としてあなたには
1. 良質で公平な医療を受けられる権利があります。
 2. 人格や価値観を尊重される権利があります。
 3. 個人情報を守られる権利があります。
 4. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
 5. 治療法を選択できる権利があります。
 6. 治療法について、第三者の意見を聞くことが出来る権利があります。
 7. 貴方の診療記録の開示を求める権利があります。

院長就任のごあいさつ



院長 橋爪 俊和 (はしづめ としかず)

この度、2024年4月1日付で南和歌山医療センター院長を拝命いたしました循環器科の橋爪と申します。当センターの主たる診療機能と運営方針につき簡単にご紹介いたします。

当センターは、田辺医療圏で唯一の地域医療支援病院（地域医療機関を支援する役割を担うべく和歌山県知事から承認された病院）で、医師はもとより、看護師・事務部門・各種診療部門（外来クラーク、管理栄養士、心理療法士、地域医療連携室職員、病棟看護補助者、病棟クラーク、放射線技師（放射線科の皆様）、メディカルアシスタント、薬剤師（薬剤部の皆様）、リハビリテーション科の皆様、療養介助員、臨床検査技師、臨床工学技士）が個々の力を結集した上に成り立っております。その医療機能を発揮する第一が救急医療です。当センターは、3次救急を担う救命救急センターを開設し、ヘリポート併設、ドクターカー運用で、総医師数は少ないのですが、コロナ禍においても年間3500名以上の救急搬送患者の対応を行ってきました。救急隊とのホットラインを常設し、日勤帯は救命救急科の専門医師、時間外は救急当直医師が対応し、少数精鋭オンコール体制（救命救急科、脳神経外科、整形外科、外科、消化器科、内科、循環器科など）による救急体制を構築しております。また、来るべき南海トラフ巨大地震に備えての災害拠点病院として毎年の災害訓練はもとより、2024年初頭の能登半島地震においてもDMATチームの派遣など積極的な活動を行っています。

がん診療に関しては、がん診療連携拠点病院として腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡を用いた低侵襲手術、ガイドラインに基づいた化学療法をはじめ、2024年4月より最新機器を導入した低侵襲・強度変調照射（IMRT）による放射線療法も開始しております。その他の拠点病院機能としては、肝疾患診療連携拠点病院、へき地医療拠点病院、エイズ拠点病院などの機能も有しております。

2025年の地域医療構想では、高度急性期、急性期を担う急性期病院としての使命をおびていますが、急性期診療やがん診療を行っているとは必ず回復期診療や終末期診療、さらには高齢化による認知症診療を伴ってきます。そうした医療ニーズに応えるため、当センターでは回復期診療のための包括ケア病棟、終末期診療のための緩和ケア病棟を運営し、また、認知症疾患医療センターも開設しています。

地域医療支援病院の機能の第二の柱として近隣の医療機関の紹介を受けて高額医療機器の共同利用も挙げられます。当センターでは3テスラMRIを2台、80列CTも2台有しており、地域の先生方に共同利用して頂いております。また、24時間体制で緊急のMRI、CT撮影が可能で、脳神経外科、放射線科、循環器科の緊急血管造影・カテーテル治療にも24時間対応が可能です。他に、開放型病床も提供させて頂いております。

地域連携室では、病診・病病連携が円滑に行われるように機能するだけでなく、地域の医師会、歯科医師会、保健所、薬剤師会、消防、行政、教育機関、介護・福祉関係機関・地域住民の方々との連携も密に行われるように定期的に連携協議会と研修会を開催し、関係各位の忌憚のないご意見を伺うことにより、より良い地域連携に努めてまいります。また、予防医療推進のため、地域の公民館などでの出張健康講座や市民公開講座を行い、地域の方々と健康を語り合う「けんこうフェスタ」や看護の日などもコロナ禍を経て、定期的に開催再開にこぎつけました。

当センターの医療機能はおおむね以上のような内容になりますが、医療機能は第三者による厳正な評価も重要と考えています。当センターは、日本医療機能評価機構（医療機関の機能を中立的な立場で評価を行う第三者機関）が定める認定基準を達成した病院として認定されており、2024年度も認定更新受審にむけて鋭意準備しております。この認定を定期的に受審することで病院機能が常に洗練された状態を維持していると職員一同実感しております。

当センターは316床の中規模病院ではありますが、上記のような多彩な機能を有する急性期病院で、また、多岐にわたる院外活動も行っております。したがって、同規模の病院と比較すれば身の丈以上の活動を行っていますが、職員は皆、地域医療支援病院としての使命と日本病院機能評価機構認定施設としての誇りを胸に、地域医療をチームで推進するため、献身的に各自の職責を全うしております。その活力の根源となっているのは、運営方針である「思いやりのある医療を実践します」という基本理念や、シンボルマークの4つのA「明るく、挨拶があり、愛のある、アカウントビリティ（説明義務責任）に徹した病院」という気概によるものと考えています。また、思いやりのある医療を患者さんや地域に提供するためには、職員がお互いに思いやりのある環境で働けることが重要です。当センター職員はお互いに思いやりのある人間関係があるからこそ、患者さんや地域に思いやりのある医療が提供できているものと自負しており、また、職員は自信をもって謙虚に勤務してくれていると確信しております。このように思いやりをもって献身的に勤務してくれている職員に対して、感謝すると同時に職員を私個人は光栄に思っています。

当センターは、地方の基幹病院として「超急性期・急性期・回復期・終末期・在宅」医療などの多方面をカバーでき、2025年の地域医療構想にも対応できるケアミックス病院として、地域の機能分担に関するハード面（診療機能）はほぼ確立できていると考えています。働き方改革や診療報酬改定、人口減少や超高齢化など医療情勢は厳しさを増していますが、社会や組織がいかに変化・発展しても最後は、やはりそれらを扱う「人」が一番重要になってくるはずですが、この確立されたハード（診療機能）を使いこなすため、素晴らしいソフト（組織の運用や人財の発掘・登用）を如何にして組み込んでいくかが、今後の病院のかじ取りを行う上で、非常に重要になってくるものと考えています。また、診療部の専門医教育や看護部の卒後研修などの充実はもとより、職員全体の教育研修をさらに充実させるなど、あらゆる意味での「人」の育成も非常に重要と考えております。

地域の皆様方により良い医療が提供できるよう、職員が一つの細胞のごとく、お互いに協力・結合し成長する生命

体となるように努力してまいり所存ではあります。より一層地域に密着した医療センターにするためには、とりもなおさず地域の皆様方の忌憚のないご意見やご叱責が欠かせないものと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

副院長就任のごあいさつ



副 院 長 西 林 宏 起 (にしばやし ひろき)

2024年4月から南和歌山医療センターに赴任した西林宏起と申します。紀南地方で仕事をさせていただくのはほぼ初めてですが、一日も早く慣れて皆さまのお役に立てればと存じます。脳神経外科手術をはじめ、脳卒中、認知症、てんかんなど有病率の高い脳疾患を専門にしています。患者さま及びそのご家族が安心して普段の生活を送れるように、頻度の高い脳疾患に幅広く対応できる診療連携を発展させていきたいと考えています。

看護部長就任のごあいさつ



看 護 部 長 八 軒 美 幸 (はちけん みゆき)

4月より着任いたしました。当センターでは「思いやりのある医療の実践」を理念として、良質な医療・ケアを通して地域の安全と安心に貢献できるよう、日々取り組んでおります。看護部では、一人ひとりの「人」を大切に、思いやりのある丁寧な看護を実践すること、そして医療チームとして、地域の皆様と医療・看護をつなぎ、患者さんにとっての最善とは何かを患者さんやご家族とともに考え、より良い医療や生活を自己決定するための支援ができることを目指しております。より一層看護を深められるよう、職員一同力を尽くしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

新任医師紹介

どうぞよろしくお願ひ致します。



内 科 医 師 小 山 史 恭 (こやま ふみちか)

今年度より内科医師として赴任しました小山と申します。昨年度は有田市立病院で勤務しておりました。患者さん一人ひとりに寄り添いながら最適な医療を提供することを心がけています。より多くの経験を積み、紀南地域の医療に貢献できるよう精一杯努力して参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



呼 吸 器 科 医 師 鷲 岡 篤 司 (わしおか あつし)

2024年の4月より和歌山県立医科大学の呼吸器内科・腫瘍内科から南和歌山医療センターの呼吸器科として赴任して参りました医師5年目の鷲岡篤司と申します。富山大学の出身で初期研修は市立奈良病院と、他県で経験を積んで出身の和歌山県に戻って参りました。呼吸器診療の特に肺癌の分野に興味があります。また気管支喘息やCOPD、間質性肺炎などの一般呼吸器診療や内科診療に関しても、南和歌山医療センターで貢献できるように努力したいと考えております。未熟な点も多くご迷惑をおかけすることも多いかと思っておりますが、よろしくお願いいたします。



消 化 器 科 医 師 田 村 崇 祥 (たむら たかあき)

2024年4月より南和歌山医療センター 消化器内科に赴任して参りました田村崇祥と申します。これまでは和歌山県立医科大学附属病院 消化器内科にて3年間勤務しておりました。専門は胆膵となりますが、消化器疾患の診療から内視鏡治療に至るまで幅広く紀南地域の医療に貢献できるように努めていきたいと考えております。何卒よろしくお願ひいたします。



消化器科医師 坂田 英 瞭 (さかた ひであき)

2024年4月より南和歌山医療センター消化器科に赴任して参りました坂田英瞭と申します。大阪医科大学を卒業後、和歌山県立医科大学附属病院で初期研修し、基礎的な医療を学んできました。消化器疾患は、胆石・胃潰瘍・腸炎などの良性疾患から、胃癌・大腸癌などの悪性疾患まで幅広く存在しています。当院では、消化器内科医としての最新の知識や技術を通して、紀南地域の消化器疾患の診断・治療に当たることで、患者様に安心して診療を受けていただけるよう精一杯努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



循環器科医師 三 浦 謙 (みうら けん)

2024年4月より南和歌山医療センター循環器内科に赴任して参りました三浦謙と申します。これまでは和歌山県立医科大学附属病院や和歌山労災病院などで勤務しており、虚血性心疾患の治療や下肢閉塞性動脈硬化症の治療を中心に行なっておりました。循環器での診療を通して紀南地域の医療に貢献できるよう邁進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



外科医師 田 宮 雅 人 (たみや まさと)

2024年4月より外科として赴任してきました田宮雅人と申します。2018年から2020年にも南和歌山医療センター外科に在籍しておりました。専門は消化器外科で、胆石・鼠径ヘルニア等の良性疾患から胃癌・大腸癌等の悪性疾患に対して、腹腔鏡を用いた低侵襲手術を中心に修練を積んで来ました。再び紀南地域の一般外科・消化器外科医療に貢献できるように精一杯努力する所存です。よろしく申し上げます。



麻酔科医師 新 藤 暉 久 (しんどう あきひさ)

初めまして。和歌山県立医科大学麻酔科より参りました、新藤暉久と申します。兵庫県出身、大学卒業後に和歌山県立医科大学に入職いたしました。麻酔科として手術が安全に行われるのを第一として、患者さんに寄り添い、安心して手術を受けられるようなお手伝いをさせていただきます。紀南地域の医療に微力ながら貢献できるよう精進いたしますので、よろしくお願い申し上げます。



救命救急科医師 知 野 紗 友 美 (ちの さゆみ)

4月から救命救急科でお世話になります知野紗友美と申します。これまでは和歌山県立医大の救命救急センターで勤務しておりました。怪我や病気は時として急に起こります。そんな救急の現場で、皆様の不安や心配を少しでも和らげることのできるような医療を提供していきたいと考えております。また、私も紀南地方出身なので、地元に近い病院で勤務できることを嬉しく感じております。未熟な点もたくさんあると存じますが、紀南の皆様の医療に貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

令和6年度になり、院長・副院長の交代によって当院の体制は一つの大きな節目を迎えることとなりました。また、医療界においても今年度は診療報酬改定があり、職員への賃上げ・医療DXに対する評価がつくことや、初再診料や処方箋料、入院時食事療養などベース点数の変更が行われることなど、多くの医療機関にとって少なからず影響をもたらすものとなっています。その大きな変革の波に吞まれないよう、当院としても様々な工夫を模索しつつ、患者さんや地域の開業医の先生方の信頼を得ることにこれまで以上に注力しなければと考えます。

管理課長 田 村 岳 弘